

税のかたちは国のかたち～財政再建のための24のポイント～

著者名 星野 泉（明治大学教授）

A5判 価格 1,000円＋税 （2015年 朝陽会）

少子高齢化時代の今、日本の財政再建のための税制とは？

税の歴史や常識を分かりやすく解説。

国際比較で見えてくることも多い。

これから私たちはどんな「国のかたち」を選ぶのか？

著者は「現代の地方財政」「グローバル財政論」「自治体財政がよく分かる本（共著）」など著書多数。

〔帯より〕

世界一の借金国家、日本。

国債発行、公共事業の拡大、金融政策にも限界が見えてきた。

「税」のかたちを国際比較し、バブル崩壊以降の日本の姿をたどる。

そして見えてきたこの“国のかたち”とは…

〈目次〉

- 1 財政や政府は、なぜ必要か
- 2 変化してきた公共部門の経済活動
- 3 人間の一生と公共
- 4 公に払うか民に払うか 一家計収入の使い道
- 5 財政だからできること ー公共部門の本質論
- 6 財政の機能の1つ目:資源配分機能
- 7 財政の機能の2つ目:所得再分配機能
- 8 財政の機能の3つ目:経済安定化機能
- 9 国の一般会計と地方財政の関係
- 10 税収減と国債依存

- 11 減税国家、日本
- 12 減税とセットで導入された消費税
- 13 何でもありの減税競争へ —国民福祉税(仮称)導入プラン
- 14 減税がピークに達した 99 年度「恒久的減税」
- 15 日本の所得税負担を小さくする「所得控除」制度
- 16 やはり低い法人の負担構造
- 17 物品税から消費税へ —バブルの一因としての租税政策
- 18 消費税制の課題
- 19 EC(EU)付加価値税の教訓
- 20 日本の消費税の軽減税率をどうするか
- 21 カナダ、消費税の逆進性を緩和する税額控除(GST クレジット) 22 国別比較 —付加価値税(VAT)が上がると消費にマイナスか? 23 消費税の使い道限定論
- 24 財政のかたち —普遍主義か選別主義か